

# 伝道するぞ！ 第2回連合まつりを終えて

10月9日(月)シオン山教会を会場に、第2回バプテスト北九州地方連合まつりを開きました。快晴の青空の下、連合内から20教会、城前和徳地区宣教主事(和白)を含む174名の参加がありました。

テーマは「伝道するぞ！」。講師の奥田知志牧師(東八幡)から、救いにこだわるあまりにキリスト教会自身ももたらしてきた分断を乗り越えるためには、私たちが恵みの応答に生きる決断をする必要があるというメッセージをいただきました。谷本仰牧師(南小倉)との対論では、応答の一つとして、いのちの大切さを社会に訴えていく役割がキリスト教会にあることを確認しました。子どもプログラム、北九連マルシェ、NPO法人抱樸「笑い家」のお弁当、いずれも大好評でした。ご協力くださった会場教会のシオン山教会、連合諸教会、連合各委員会の皆様方に心からの感謝を申し上げます。(山田雄次)



## 編集後記

旧小倉恵ヶ丘集会所で使われていた献金袋と新共同訳聖書を、平尾バプテスト教会・大名クロスガーデンで用いていただけることになり、森崇牧師ご夫妻が宣教支援センター事務局(東八幡)を訪ねていただきました。森牧師は私と西南神学専攻科の同期です。協力伝道の恵みが地方連合の枠を越えて広がることを心からうれしく思います。(齊藤弘司)



## 次回予告

巻頭言 福田令子 連合女性会長(富野)  
教会おじゃまします報告 北九州教会

## 11月後半・12月の予定

- 11月15日(水)連盟定期総会(天城山荘)17日まで
- 27日(月)宣教支援センター常任委員会 (東八幡)15時
- 30日(木)連合役員会(シオン山)18時半
- 12月14日(木)おじゃまします若松教会14時半

## 宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。

HP : <http://bapkitaq.jimdo.com>  
パスワード : kitag2015



# 連盟全国支援・地域協働プロジェクト バプテスト北九州地方連合 宣教支援センターニュース 24号



発行責任者：山田雄次  
発行所：〒805-0015  
北九州市八幡東区荒生田2-1-40  
Tel&Fax：(093)651-6669  
東八幡キリスト教会内  
連合宣教支援センター事務局  
発行日：2017年11月15日



教会の自己診断スケール活用術大分教会  
教会おじゃまします シオン山教会・東八幡教会  
伝道するぞ！ 第2回連合まつりを終えて

写真：「第2回連合まつり」  
(10/9 シオン山教会)



## 諸教会元気アップのために

連合壮年会長 菊岡義修(東八幡)

今年度、北九州地方連合壮年会では、テーマ「元気な教会になろう」を掲げて、活動しています。

2016年8月、西南女学院・シオン山教会にて開催した第51回全国壮年大会において私たちは、これからの教会を支えていくために、壮年会・女性会・青年会・少年少女会・小羊会の枠を越えて、力を合わせることを約束しました。

現在のところ一つの活動しか出来ていませんが報告いたします。名付けて「芦屋教会ペンキ塗りワーク」です。芦屋教会から依頼を受けて、9月9日(土)に行いました。現場の下見、ペンキの調達などの準備段階から、皆で手分けをして当日を迎えました。

当日は壮年だけでなく、青年会の有志も参加しました。遠くは大分教会・別府国際教会から駆けつけてくださり、総勢30名ほどになりました。最初はなかなか上手く塗れなかったペンキも徐々に慣れてきて、楽しみながら作業に励むことができました。次第に建築当時の綺麗な教会堂の姿がよみがえってきました。私たちの手足はペンキまみれに、ある方は顔までペンキだらけになりながらも、みんな笑顔でした。

作業終了後に、青年会が中心となって、大BBQ大会を行いました。芦屋教会の皆様方から、たくさんのおにぎりとお肉が差し入れられました、大分教会男性会からもお肉の差し入れがあり、会場をにぎやかにしました。東八幡教会風焼きそば・焼きおにぎりも評判でした。芦屋教会に集まった皆様方と美味しい食事をとり、親睦を深めることができました。連合壮年会が呼びかけ、このようにたくさんの人たちが、年代を超えて集まったことで「元気な教会」になることができたと思います。

後日、芦屋教会の川端恵実先生から、リフレッシュした会堂に、新来会者を迎えることができたとの知らせがありました。嬉しく思います。すべてに感謝して、アーメン。



郵便振替 01590-7-3255 加入者名 バプテスト北九州地方連合  
通信欄に「宣教支援センター支援献金」と明記してください。

## 教会の自己診断スケール活用術 大分教会

大分教会では2017年8月、10月と、第1主日の礼拝後に行う全体会の中で、2回に分けて「教会の自己診断スケール基礎編」に取り組みました。昼食を取りながらの全体会ということもあり、毎回20～25名の参加がありました。教会の自己診断スケール活用のコツをご紹介します。

### 1) 20名を超えたら、班ごとの回答が効果的

大分教会では4つの班に分かれて、それぞれの班に入った執事さんのリードで回答に取り組んでいました。執事さん達は、前もって執事会で自己診断スケールの回答に取り組んで、この日に備えたそうです。一つの班の人数は5～6名でした。質問の意味がよく分からない時に、遠慮せずに班の中で聞き合うことができますので、参加者が多い割には取り組みやすかったようです。

### 2) 低い評価はよい兆し

時間が経つにつれて、「教会の使命」や信仰告白は過去のものとなります。どこかのタイミングで受け取り直しの作業が必要です。診断結果が思わしくなくても、少しも悔やむことはありません。

「教会の歴史性・隣人性」の項目については、「質問そのものが難しい」という声を聞きました。例えば教会の歴史は、バプテスマクラスの限られた時間では、十分に扱うことができないと思います。教会には新しい方、転入会の方が増し加えられていきます。教会のあゆみをどのように語り継いでいくか、教会全体で考えていかなければなりません。課題に気付いたということでもよい兆しです。

### 3) 教会学校の活性化に向けて

大分教会は「子どもと共なる礼拝」を大切にしており、教会学校にも熱心に取り組んでおられます。それでも教会学校のリーダーを育てる目的の研修はしばらく行っていないとのことでした。リーダーや書記を同じ方が続けて担っておられる場合には、今更何を学ぶのかというご意見があるかもしれません。交代したくても人材がないという教会もあることでしょう。

それでも委ねられている奉仕を見つめ直すことは、決して無駄な時間にはなりません。いかに参加者からコメントを引き出すか、お休みした方へのフォローなど、テーマに事欠くことがあります。

### 4) 新たな気付きが与えられる

「組織の機能と整え」の項目では、個人情報の管理が話題となりました。来会者カードの取扱いや、アウトリーチに使う名簿の管理など、これまで以上に配慮する必要があるという気付きが与えられました。台風被害に備えて、非常持ち出し書類を申し合わせているお話も伺うことができました。

また「教会の使命」の項目では、中長期計画についての意見が出ました。キリスト教会の中には3年かけてようやく芽が出てくるような課題もあるのではないのでしょうか。地域に開かれた教会としてどのように街の人びとにかかわるか。こればかりは、かかわらなければ始まりません。

大分教会では今年度、地域のコーラスサークルに、無償で会堂を貸し出すという決断をしました。その後わずか2か月で、メンバーの方を偲ぶ記念会を、村田牧師が頼まれることになったのだそうです。未信者の方がたに福音を語る機会を得たのです。よい証しを聴かせていただうれしく思いました。



## 第21回

### シオン山教会を訪問しました

9月28日(木)はシオン山教会におじゃましました。ひさびさの19時開始となりましたが、11教会から64名の方がたが集まって下さいました。

伊藤光雄牧師は奨励の中で、パウロが自分自身の弱さと向き合う中で、「心の目を開かせてください」という祈りに導かれていったことを紹介して下さいました。希望の光である主をほめたたえること、そして主を賛美することの意味について、夜の会堂で静かに思い巡らす時となりました。



シオン山教会は創立95年を迎えました。戦中・戦後の幼児教育、今日に至るまでの学生伝道と、シオン山教会の歩みは、西南女学院と共なる歩みであることを再確認しました。地方連合に仕えることを教会の使命に掲げておられることも大きな特徴です。会堂等の設備更新に取り組みながら、100周年に向けての着実な歩みを重ねておられることを知りました。温かいおもてなしを感謝します。



## 第22回

### 東八幡教会を訪問しました

10月26日(木)は東八幡教会におじゃましました。灯りがともされた軒の教会に、10教会から51名の方がたが集まって下さいました。

奥田知志牧師は同じ日に、かつてブラジル宣教に力を尽くした戸上信義先生の葬送式を行ったことを取り上げながら、私たちキリスト者が、赦された罪人として福音伝道に仕えることのできる恵みを大いに語って下さいました。

後半は菊川清志兄の挨拶に始まり、5名の教会員が東八幡教会の会堂建築や最近の取り組みについて、スライド発表をして下さいました。



毎年春休みに行う幼小科の平和の旅、特別伝道礼拝のために1万枚のチラシを印刷し3千枚は手分けをして配っていることなどに、参加者の注目が集まっていました。終了後も熱心に質問している方がおられ、関心の高さに驚かされました。ありがとうございます。